

規格No.	規格内容	メーカー担当者							設備担当者、製造担当者		審査者		
		対象部位	作業区分 (プルダウン選択)	危険性分類 (プルダウン選択)	提出資料	対策内容(案) (プルダウン選択)	対策部位写真		期限 (プルダウン選択)	対策への見解 (プルダウン選択)	対策内容審査 (プルダウン選択)		
							対策前	対策後					
1.1. インターロック規格													
1.1(1)a)	稼働中機械的な危険性により災害の発生が予想される場合は、フェールセーフ型のハードウェアインターロックを所持すること。 法令分類 対策事例	基板ホルダ	定常作業	巻き込みの危険源		対策として保護カバー取り付けを実施します。(但し仕込室扉にエアセンサー、処理室扉にはハードスイッチ付き)	ファイル登録	ファイル登録	ファイル登録	2次適合性評価時		出荷前検査時に再確認します。	項目追加
1.1(1)b)	稼働中電気的な危険性により災害の発生が予想される場合は、フェールセーフ型のハードウェアインターロックを所持すること。 法令分類 対策事例	プラズマ源	非常常作業	その他の危険源(感電防止)		対策として保護カバー取り付けを実施。保護カバーを"開"したらプラズマ源電源は遮断される。またプラズマ源保護カバー"開"中はプラズマ源電源は入らない。	ファイル登録	ファイル登録	ファイル登録	3次適合性評価時			項目追加
2.2. 機械安全規格(油圧・空気圧含む)													
2.6(9)b)	電装系の上部及び近傍の冷却水配管に使用されている継手及び配管には熱収縮チューブによる局所保護を施すこと。但し、メンテナンス頻度が高い部分は配管系を二重配管としたり、ジッパーチューブにより保護すること。 対策事例	電磁弁、MFC等	定常作業	その他の危険源		自社安全設計を採用し、継ぎ手の保護はしないで電装品側に水滴がかからぬようカバーまたはジッパーチューブを設けます。	ファイル登録	ファイル登録	ファイル登録	2次適合性評価時			項目追加
2.6(11)	用力取り合い部の冷却水の継手部は筐体内部のバット上にて接続され、作業エリアへの漏水拡散を防止すること。 対策事例	冷却水配管系	定常作業	その他の危険源		対策として冷却水配管取り合い部はドレンパンを設置します。	ファイル登録	ファイル登録	ファイル登録	2次適合性評価時			項目追加
3.3. 電気安全規格													
3.2(8)	機器に水、薬液が進入する恐れがある場合は防滴対策を施すこと。 法令分類 対策事例	本体電装機器	定常作業	漏液の危険源		対策として冷却水が漏れる可能性のある場所では電磁弁、MFC等は保護カバーにて覆う構造とします。	ファイル登録	ファイル登録	ファイル登録	2次適合性評価時			項目追加
3.3(2)	モーターごとに、ブレーカー、CPを用意すること。	制御盤、プラズマ源電源、本体	定常作業	電氣的危険源		対策としてモーター単位にブレーカーを準備します。(但し200Vのみ)100V回路のモーターは除外します。(ヒューズで保護)	ファイル登録	ファイル登録	ファイル登録	2次適合性評価時			項目追加
5.5. 配線・配管施工規格													
5.1(3)	どうしても人と干渉するときはカバー(踏台等)を設置すること。 法令分類 対策事例	ケーブル配線、配管	定常作業	人員の滑り、つまずきおよび転落		対策として配線ダクトを使用してケーブル配線を覆い隠します。	ファイル登録	ファイル登録	ファイル登録	3次適合性評価時			項目追加